

3 環境

基本的な考え方 …… 14

グローバルマネジメント …… 15

環境側面の重要課題 …… 17

気候変動・エネルギー問題
への対応 …… 18

資源の効率利用 …… 22

▶ クリーンな大気の保全 …… 25

その他の重要課題 …… 26

クリーンな大気の保全

Hondaのアプローチ

Hondaは公害問題が深刻化した1960年代から「大気汚染問題」を重要課題と認識しています。とくに都市部における大気汚染が人々の健康に悪影響を与えると考え、製品の排出ガスをクリーンにする技術の開発で解決してきました。

これまで、Hondaは二輪車においては、市販車すべてのエンジンの4ストローク化を完了するとともに、全世界で販売する機種の88%以上に「PGM-FI※1」を適用し、燃焼効率を向上させることで、排出ガスをクリーンにしてきました。

四輪車では「アコード プラグインハイブリッド」が世界で最も厳しいとされるUSカリフォルニアLEV※2 3 SULEV※3 20規制を世界に先駆けて達成。

その後も先進排ガス規制である、欧州Euro6や中国の第六段階（国6）、さらに世界的に強化されつつある、PM※4（微粒子）についても先行して低減技術を投入してきました。

また、新興国においても、先進国同様の技術を順次適用し、世界的な排出ガスクリーン化に貢献しています。

パワープロダクトにおいては、エンジンの改善技術により世界で最も厳しいUS EPA※5 Phase3規制を触媒なしでクリアし、対応を完了しました。

今後も内燃機関の排出ガス内の有害成分を低減するとともに、使用時に排出ガスが出ない電動製品の販売比率をマイルストーンに設定し、クリーンな大気の保全に取り組みます。

自動車の生産においては、塗装工程で使用する塗料やシンナーに含まれる溶剤成分が光化学オキシダントの原因となるVOC※6の発生につながります。これまで、塗装効率の向上、VOC除去装置の導入、埼玉製作所完成車工場では、ショートプロセス高機能塗装技術「Honda Smart Ecological Paint」※7の導入などでVOC排出の削減を進めてきました。

Hondaは、今後も削減の取り組みを継続していきます。Hondaは環境性能の高い製品をリーズナブルな価格で提供し、排出ガスのクリーン化と「大気汚染問題」への対応で業界をリードすることが、クリーンな大気を保全するとともに、ビジネス拡大の大きな機会になると考えています。

※1 PGM-FI: Programmed Fuel Injection (電子制御燃料噴射装置) の略。

※2 LEV: Low Emission Vehicle (低排出ガス車) の略。

※3 SULEV: Super Ultra Low Emission Vehicle (極超低排出ガス車) の略。

※4 PM: Particulate Matter (粒子状物質) の略。

※5 US EPA: United States Environmental Protection Agency (米国環境保護庁) の略。

※6 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) の略。

※7 Honda Smart Ecological Paint: 4コート3ベークの塗装方法から中塗り工程を廃止した、水性3コート2ベーク塗装。